

氏名

シイバ シュンジ
椎葉 俊司

所属	歯科侵襲制御学分野		
職名	准教授		
最終学歴	九州歯科大学大学院歯学研究科	学位	博士（歯学）

専 門 分 野		
教 育 実 績	担当講座名称	単位数 講義時間数 実習時間数 学科・院の別
	歯科麻酔学I	2 単位 3.0 時間 時間 歯学科
	歯科麻酔学II	2 単位 3.0 時間 時間 歯学科
	総合講義I	2 単位 1.0 時間 時間 歯学科
	総合講義II	2 単位 1.0 時間 時間 歯学科
歯科麻酔学実習	2 単位 時間 10.0 時間 歯学科	
大学運営における主な 役職履歴（過去5年間）		臨床研修委員会 副プログラム責任者
研 究 分 野		口腔顔面領域の難治性疼痛（口腔顔面痛）
研究課題	課題名	本邦には原因不明の痛みにより日常生活に何らかの支障がある慢性疼痛患者が2000万人いると言われて いる。どのような診療科にも得体の知れない痛みが存在し、それぞれにそれらしい疾患名が付けられて いる。この得体の知れない痛みは表現型こそ異なっているが、根元は同じと考えられる。つまり、脳が 生み出した痛みである。これまでの研究で、旧皮質で本能的な大脳辺縁系と理性的な前頭前野のアクセル、 プレーキ関係の機能変調が原因であることがわかってきた。これからの目標は①より詳細なメカニ ズムを解明することが必要になる。動物実験レベルではなくヒトのfMRI、脳波、脳血流量などの脳情報 をもとに検討したい。②治療薬、治療法の開発。機能変調を来した脳をいかに復帰させるかが問題とな る。これまで抗うつ薬（慢性疼痛は精神疾患が原因ではないが治療薬として使用される）が用いられて きたが、十分な効果が上がってはいない。現在の慢性疼痛への対応法は認知行動療法により「痛みが あっても生活できる。」「痛みと共存する。」とまことしやかに言われており、もはや痛みの軽減に主 眼が置かれていない。しかし、共存するためにはある程度痛みを軽くする必要がある。ここで、現 在、全身麻酔薬として開発されたが鎮痛効果、抗うつ効果など様々な薬理作用を有するケタミンに注目 している。
	キーワード (5つまで)	口腔顔面痛、神経障害性疼痛、非歯原性歯痛、高次脳機能変調、前頭前野
	共同研究等 の実績	アセトアミノフェンの悪性腫瘍に与える影響（昭和薬品化工）
研 究 業 績 (著書・発表論文等) (最新の5編)	Pain Relief in Short-Lasting Unilateral Neuralgiform Headache with Conjunctival inJection and Tearing Syndrome with Intravenous Ketamine: A Case Report. Shiiba S, Sago T, Kawabata K. Acta Neurol Taiwan. 2021 Mar;30(1):35-38. PMID: 34549399	
	Effects of stellate ganglion block on postoperative trigeminal neuropathy after dental surgery: a propensity score matching analysis. Sago T, Takahashi O, Ogawa M, Kawabata K, Matsukawa I, Shiiba S. Sci Rep. 2020 Aug 10;10(1):13463. doi: 10.1038/s41598-020-70533-w.	
	Modified Lateral Surgical Approach to the Pterygopalatine Fossa. Uehara M, Sasaguri M, Shiiba S, Tominaga K. J Craniofac Surg. 2017 Jun;28(4):1007-1009. doi: 10.1097/SCS.0000000000003582. PMID: 28230590	
	Effect of acetaminophen on osteoblastic differentiation and migration of MC3T3-E1 cells. Nakatsu Y, Nakagawa F, Higashi S, Ohsumi T, Shiiba S, Watanabe S, Takeuchi H. Pharmacol Rep. 2018 Feb;70(1):29-36. doi: 10.1016/j.pharep.2017.07.006. Epub 2017 Jul 15. PMID: 29306760	
	Modified Lateral Surgical Approach to the Pterygopalatine Fossa. Uehara M, Sasaguri M, Shiiba S, Tominaga K. J Craniofac Surg. 2017 Jun;28(4):1007-1009. doi: 10.1097/SCS.0000000000003582. PMID: 28230590	
産学官連携実績 (主要3件)	なし	
産学官連携 可能・希望分野	痛み治療薬物の開発（薬理）、痛みを測定する機器の開発（脳科学など）、痛みの心理カウンセリング (心理学)	
取得した実用新案特許等 (主要5件)	なし	
所 属 学 会 (主要5件)	日本口腔顔面痛学会、日本歯科麻酔学会、日本ペインクリニック学会	